

全鉄連流通動態調査結果表 2019年7月分

(2019. 8. 26)

全国鉄鋼販売業連合会

品 種		地区	前月在庫量		仕入量		販売量		当月在庫量	
			6月実績	前月比	7月実績	前月比	7月実績	前月比	7月実績	前月比
異 形 棒 鋼		東 京	7,635	101.5%	50,014	109.8%	50,337	110.8%	7,312	95.8%
		大 阪	2,930	94.0%	15,948	101.7%	16,035	101.0%	2,843	97.0%
		愛 知	5,612	104.1%	8,338	122.4%	8,228	124.9%	5,722	102.0%
		計	16,177	100.9%	74,300	109.2%	74,600	109.9%	15,877	98.1%
形 										

(注) ①単位トン ②調査対象企業 東京30 大阪20 愛知16 合計66社

※この資料は経済産業省、鉄流懇関係者、報道機関のみ配布しています。

〔調査内容変更について〕

昭和48年4月より開始された本調査は、平成12年4月実績発表まで27年間同一フォーム内容で実施され、鋼材二次流通の実態を表す資料とされていた。しかし、この間に調査品目の中には流通性がなくなった品種、また、未調査品種ながら、市場性が高い品種など鋼材市場においてさまざまな品種の盛衰があった。そこで全鉄連常任理事会において、本調査の見直しが提議された。そして、平成12年5月分実績より従来の流通動態調査を改訂し、上記のとおり発表することとなった。

その変更内容は①調査対象品種にコラムを追加②調査対象品種よりプレーン、不等辺山形鋼、I形鋼、デッキ・キーストンを除外する③契約残調査を取り止める、以上3点である。また、本調査を「特約店流通動態調査」と称していたが、これを「全鉄連流通動態調査」と呼称変更した。これは調査機関である当会が全国鉄鋼販売業連合会に名称変更したことによる。また、平成13年5月実績をもって調査対象品種変更後1年が経過した。この間、暫定的な数量をもって時系列表及びグラフを作成していたが、それを改め月表の数値と一致するように改訂した。